

鶴ヶ島市立長久保 小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学校教育目標・教育方針	教職員	①私は、学校教育目標や教育方針を理解し、達成できるよう努めている。	<p>70% 30% 0%</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標の保護者認知度は、昨年度と同じ割合であり、十分とは言えない。地域認知度の①の割合は昨年度比31%増えている。 ・学級目標や個人目標を達成するための努力をしている児童は、昨年度比5%増え、90%を超えている。
	児童	①私は、学級目標や個人目標を達成するために努力している。	<p>51% 41% 6% 2%</p>	<p>課題解決への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標や教育方針を学校だよりや懇談会資料に掲載する。また、授業参観時に説明する。 ・学期はじめに、児童・保護者・担任の思いや願いを募り、学級目標を作ることを今後も継続していく。また、学期ごとに振り返りを行う。
	保護者	①私は、学校教育目標や教育方針を知っている。	<p>24% 57% 14% 5% 0%</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者認知度を高めるために、保護者同士が触れ合う機会(ふれあいまつりを保護者の参観・参加ありにする)や話し合う機会(懇談会時にあるテーマを設定する)を設ける。 ・ホームページの充実によって、わかりやすく学校の様子も見ることができ、これからも楽しみである。 ・ゼロカーボン・デジタル社会の時勢、保護者の目に留まるようメールやホームページでの周知が効果的ではないか。 ・ホームページの学校だよりを開き、学校教育目標を知りました。ホームページを開いてすぐに見れると良いと思った。 ・保護者に学校だより、学級だよりを配布したり、学校に関する様々な情報を保護者・地域に発信していると思います。 ・分かり易く、適切な分量が良いと思う。 ・ホームページ、C4th、回覧板のご活用をいただけたら。 ・学校教育目標は、どこかで見ていたとしても記憶に残っていない人が多いのではと思う。どのように意識付けしていくかが課題。
	地域	①私は、学校教育目標や教育方針を理解している。	<p>71% 29% 0%</p>	

鶴ヶ島市立長久保 小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学級経営	教職員	②私は、児童のよさや可能性を發揮できる学級経営を行っている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>評価結果について の分析・課題</p> <p>・全対象者の①②を合わせた割合が90%を超えている。しかし、そうは感じていない児童や保護者が一定数いる。</p>
	児童	②私は、学級での生活が楽しいと感じている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□系列1 □系列2 □系列3 □系列4 □系列5</p>	<p>課題解決への方策</p> <p>・学級会を充実(月に1回は学級会を実施)することで自分たちで学級を作っている意識や学級への所属感を高める。 ・代表委員会の裏の時間が係活動となっているので月1回は確実に実施する。 ・悩みや不安を感じている児童に寄り添い、家庭と連携する。</p>
	保護者	②学校は、児童のよさや可能性を發揮できる学級づくりをしている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>・子どもたちの授業を見て、一人ひとり発言する機会が多いので進級・進学するとともに役に立つことが多いと思う。 ・楽しいと答えている児童が多いのは良いことだと思う。色々な児童がいて学級経営も大変だと思う。 ・学校が楽しいと感じている児童が93%いるので良いと思う。 ・教室や廊下などの掲示物で学級の様子や雰囲気に触れることができるので続けていただけたら。 ・個性を尊重しながらの学級経営は難しい部分も多いと思うが、先生方はとてもがんばっていると思う。</p>
	地域	②学校は、児童のよさや可能性を發揮できる学級経営を行っている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	

鶴ヶ島市立長久保 小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学習指導①	教職員	③私は、児童が意見を主体的に発表したり、他者の意見を聞いたりして学びを深める授業を実践している。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>評価結果について の分析・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の①②を合わせた割合が100%、児童の①②を合わせた割合が88%と乖離がある。
	児童	③私は、自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれながら勉強している。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>課題解決への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員は児童が意見を主体的に発表したり、他者の意見を聞いたりして学びを深めるチェックリスト授業を実践している。チェックリストをもとに各項目を数値化することで教職員と児童との乖離に気づき授業改善していく。 ・児童の考えを広げたり、いろいろな友達考えにふれるためワールドカフェ等の手法を活用する。
	保護者	③学校は、児童が自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれる授業をしている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発言できる機会も多く楽しそうに授業ができていると思った。 ・高学年になると真剣に授業に取り組む姿が見られた。 ・1年生はまだ身辺整理の段階で学年が上がるにつれ成長していく過程が見られた。 ・学校という小さな社会で色々な考えがある中でも、自分自身が正しい事、悪い事の判別が出来るよう工夫されている。 ・学び合い学習もだいぶ定着してきていると思う。発表することが苦手な児童もいると思いますが、学び合いの場合は、グループでの話し合いも多いので声は出しやすいと思う。
	地域	③学校は、児童が自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれる授業をしている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	

鶴ヶ島市立長久保 小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学習指導②	教職員	④私は、学習目標達成のために学習用端末や大型モニタ等のICT機器を活用して、わかりやすく工夫した授業を行っている。		<p>評価結果についての分析・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員は、ICT支援員の活用や授業研究会を通してオクリンクプラスやジャムボード等を取り入れたことで①②を合わせた割合が90%となった。 ・全対象者の評価(客観的な視点)として③の割合が一定数いる。
	児童	④私は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりして、積極的に授業に参加している。		<p>課題解決への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続きICT支援員を活用し、オクリンクプラスでの具体的な使用方法を誰でも行えるように研修を行っていく。 ・授業参観や公開日等で学習用端末や大型モニタを使った授業を行う。 ・低学年から使用し、使い方に慣れさせていく。
	保護者	④学校は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりする、授業を行っている。		<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTは情報を収集し、共有するには優れているので活用してほしい。半面、書くこと、計算することは鉛筆を使って紙に書く方が適している。メリットとデメリットを使い分けて使用するべきである。 ・音読の宿題を動画にとってオクリンクに提出するやり方は工夫がある。担任が変わると宿題の内容も変わってしまうのが残念である。 ・家庭で取り組む明確な課題がないのであれば、端末の毎日の持ち帰りは不要である。(端末の重さを考慮してほしい) ・昔と違う学習のやり方・方法。タブレットやパソコンを使用して自分なりのやり方で勉強している。 ・児童はタブレットを上手に活用している。半面、書くことや発表することはどうなのか。 ・ICTの授業は殆どの子がタブレットや大型モニタをよく見ている。反面、教科書を見る・ノートに書くなどはやる気がバラバラ感じられた。 ・これからもICTを使って、より広く学習出来る事を望む。その中でネットリテラシーを学ぶ機会を設けていただきたい。 ・学習用端末がどのように活用されているか(ドリル以外で)見えにくい部分もあるかと思うので、授業参観や公開日等で子どもたちの活用が見られたらよいのでは。 ・教室での学習は、ICTを活用し、自主学習はくぐくんノートで『書く』ことを大切にしていると思うので、バランスのとれた学習ができていると思う。
	地域	④学校は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりする、授業を行っている。		

鶴ヶ島市立長久保 小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
体力	教職員	⑤私(学校)は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、児童の体力向上を図っている。		<p>評価結果についての分析・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の③④を合わせた割合が11%である。体力をつけようと努力できていない児童が一定数いる。 ・保護者の③④を合わせた割合が16%である。学校は体育的行事の充実や運動機会の確保に努めていないと考察できる。
	児童	⑤私は、体育や休み時間に、校庭や体育館などでいろいろな運動をして、体力をつけようと努力している。		<p>課題解決への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動したくなるような環境(ライン)や取組(委員会活動)を行っていく。 ・児童の活躍を見ていただくために土曜公開や授業参観で体育の授業を実施していく。 ・体育的行事(新体力テスト、運動会、持久走月間、短なわ大会)について部会で振り返りを行い、児童の体力向上につなげる。
	保護者	⑤学校は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、児童の体力向上を図っている。		<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動会や集え龍の子大運動会の競技数が減ってしまい残念である。リレーや走り幅跳び等が減ったことで運動する機会が減る原因のひとつでもある。集え龍の子大運動会においては、高学年ならではの競技があってもよいのではないかと。 ・体力不足も案じられますが、下校後の子どもたちを見ているとまだまだ遊び足りないというようにもうかがえ大丈夫なのではと思うこともある。 ・長小山の環境を整備することで体を動かす機会が増えるかもしれない。 ・休み時間は、なるべく外で運動できる様に指導してほしい。 ・夏の暑さの厳しい中でも運動会機会を確保いただいていると思う。保護者に伝わってほしい。 ・毎日の外遊びでは、体力を使うので体力作りには大切だと思う。
	地域	⑤学校は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、児童の体力向上を図っている。		

鶴ヶ島市立長久保 小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
生徒指導 ①	教職員	⑥私は、児童の生徒指導上の課題等に対して、組織的に、家庭と連携・協力しながら対応している。	<p>60% 40% 0% 0% 0%</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の③④を合わせた割合が21%あり、該当児童は、いじめやトラブルなどの問題に対して、相談や解決ができていないことが考えられる。
	児童	⑥私は、いじめやトラブルなどの問題に対して、先生やおうちの人に相談し、一緒に解決しようとしている。	<p>45% 34% 13% 8% 0%</p>	<p>課題解決への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康観察時の児童の観察・表情確認、出授業の教諭との意見交換、せらぶらす結果分析、年5回のなかよしアンケート、スペシャルサポートルームの活用を行い、より一層児童の気持ちに寄り添い、家庭との連携・協力を密にする。
	保護者	⑥学校は、いじめやトラブルなどの問題に対して、組織的に、家庭等と連携・協力しながら対応している。	<p>41% 47% 10% 2% 0%</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2割の児童の中には、自身が小さい問題と捉えていたり、相談しなくても解決できると考えていたりする児童もいるのではないかと。しかし、誰にも相談できない児童がいるのが一番心配である。 ・SNSのトラブルも近年問題となっている。児童がスマートフォンを持つことも考え直したり、使い方のルール作りを一緒に考えたりすることが不可欠である。 ・多様性の中、髪の毛の色について学校がきまりについて児童・保護者に伝えるべきである。ひとつの堰を越えると崩れていく。 ・みんな元気なように見える。先生方細やかな見守りとアンケート、家庭との連携・協力が大事になる。 ・学校外で起こった出来事を次の日に学校に相談できる関係性が素晴らしいと思う。学校側もすぐに対応してくれ児童と学校との信頼関係ができていると感じた。 ・色々な家庭・保護者の考えも色々ありますが、児童たちが孤立せず、心の発達に寄り添い、丁寧に対応を引き続き行っていただきたい。 ・いじめやトラブルのきっかけは、ちょっとした事の違いでも起こると思うので、早い段階での対応が大切だと思う。誰にも言えなくなる児童もいると思うので、気づいてあげられる体制があると良いのではと思う。
	地域	⑥学校は、児童の生徒指導上の課題等に対して、組織的に、家庭等と連携・協力しながら対応している。	<p>25% 75% 0% 0% 0%</p>	

鶴ヶ島市立長久保 小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
生徒指導	教職員	⑦私は、児童のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。	<p>70% 30% 0%</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全対象者の①②を合わせた割合が90%を超えている。しかし、自分のよさや可能性を伸ばしたり、友達との関わりを大切にしながら、自分の目標に向かって行動できていない児童が一定数いる。
	児童	⑦私は、自分のよさや可能性を伸ばしたり、友達との関わりを大切にしながら、自分の目標に向かって行動したりしている。	<p>57% 34% 7% 2%</p>	<p>課題解決への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別活動(学級活動)の授業では、集団活動や体験活動を通じて、自己の長所を認識し、その長所を生かして将来の生活課題を改善しようとする視点を育む。 ・道徳では、自分の特徴(長所・短所)を理解し、自分のよさを伸ばし、自分らしさを大切にしながら調和のとれた自分を形成していける授業を行う。
	保護者	⑦学校は、児童のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。	<p>42% 50% 7% 1%</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今から自分の長所を分かっていると様々な所で強みになると思う。 ・短所にも気づければ気をつけることで、友達との関わりもスムーズになり良い関係も築けるようになると思う。 ・児童の困っている事に耳を傾け、寄り添って指導をお願いしたい。 ・誰でも長所、短所はある。先生方はきちんと対応していると思うが、学校外にいる地域の方は、そういう部分が見えてくることはないのだから分からないのだと思う。だから②が多いのだと思う。
	地域	⑦学校は、児童のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。	<p>25% 75% 0%</p>	

鶴ヶ島市立長久保 小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
特別支援教育	教職員	⑧私は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の③④を合わせた割合は昨年度比-4%、保護者の③④を合わせた割合は昨年度比-2%となり、令和7年度は肯定的な評価が増えたと考察することができるが、引き続き一人ひとりの特性の理解に努める必要はある。
	児童	⑧私は、苦手なことなどを、先生やおうちの人に相談し、一緒に解決しようとしている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>課題解決への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度初めの児童理解研修を引き続き行い、児童一人ひとりの特性を共有する。 ・平等より公正、環境を意識した配慮(書く際にノートでもタブレットでもどちらでもよいハイブリッド型)を全教職員が共有し、指導する。
	保護者	⑧学校は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生は一人ひとりの特性を考えながらの授業は大変なことと感じる。子どもたちはいつも楽しそうに取り組んでいる様子である。 ・特性のある子が増えている中、先生方は本当に大変だと思う。保護者にも理解してもらい個々に応じた関わり方を家庭と学校で共有できれば一番良いがそれも難しいかと思う。 ・自分のことをダメな子を思わずに過ごせる方法があると良いが。 ・児童一人ひとりの特性に応じた指導をお願いしたい。 ・特別支援学級の児童も落ち着いて学習していると思う。先生方の目が届いているからだと思う。
	地域	⑧学校は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	

鶴ヶ島市立長久保 小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察												
地域とともにある学校	教職員	◎私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに努めている。	<table border="1"> <tr><th>評価項目</th><th>割合</th></tr> <tr><td>①</td><td>35%</td></tr> <tr><td>②</td><td>60%</td></tr> <tr><td>③</td><td>5%</td></tr> <tr><td>④</td><td>0%</td></tr> <tr><td>⑤</td><td>0%</td></tr> </table>	評価項目	割合	①	35%	②	60%	③	5%	④	0%	⑤	0%	<p>評価結果についての分析・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の③④を合わせた割合は昨年度比-3%となり、令和7年度は肯定的な評価が増えたと考察することができる学校運営協議会・学校応援団の意義や活動が保護者に十分伝わっていない。
	評価項目	割合														
	①	35%														
	②	60%														
③	5%															
④	0%															
⑤	0%															
児童			<p>課題解決への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校は、学校応援団と学校運営協議会にいつも助けをいただいととてもありがたい。環境ボランティア(除草・落ち葉掃き)、見守りボランティアの募集を自治会に配布し協力をいただいている。今後も地域への広報を行い、力を貸してもらいながらよりよい学校づくりをしていく。 													
保護者	◎私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに協力している。	<table border="1"> <tr><th>評価項目</th><th>割合</th></tr> <tr><td>①</td><td>26%</td></tr> <tr><td>②</td><td>53%</td></tr> <tr><td>③</td><td>19%</td></tr> <tr><td>④</td><td>2%</td></tr> <tr><td>⑤</td><td>0%</td></tr> </table>	評価項目	割合	①	26%	②	53%	③	19%	④	2%	⑤	0%	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下校時の見守り、学校運営協議会での授業参観などで子どもたちの様子を拝見していますが最近では元気に声をかけてくれる子もいる。とてもうれしく思う。 ・自治会や見守りボランティアの方たちの高齢化が進み協力することが大変になっている話を聞いた。どうしたら協力者を増やせるかを考えていくことが必要か。 ・地域の人材などを活用して、学校教育をより良いものにしていくと思う。 ・学校応援団には保護者の方も多く参加いただいているので活動内容をもう少しアピールできればよいのかなと思う。 ・保護者の方に学校応援団の活動をPRし協力して頂ける体制を整えていきたい。 	
評価項目	割合															
①	26%															
②	53%															
③	19%															
④	2%															
⑤	0%															
地域	◎私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに努めている。	<table border="1"> <tr><th>評価項目</th><th>割合</th></tr> <tr><td>①</td><td>63%</td></tr> <tr><td>②</td><td>37%</td></tr> <tr><td>③</td><td>0%</td></tr> <tr><td>④</td><td>0%</td></tr> <tr><td>⑤</td><td>0%</td></tr> </table>	評価項目	割合	①	63%	②	37%	③	0%	④	0%	⑤	0%		
評価項目	割合															
①	63%															
②	37%															
③	0%															
④	0%															
⑤	0%															

鶴ヶ島市立長久保 小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
働き方改革	教職員	⑩私は、働き方改革の目的を理解し、業務改善を進め、心身ともに健康であるよう努めながら、教科指導や教育相談等に係る時間を増やし、教育の維持・向上に努めている。		<p>評価結果についての分析・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の①②を合わせた割合が100%である。働き方改革の目的を理解し、業務改善を進め、心身ともに健康であるよう努めているが、実際の業務量（日中は授業や生徒指導、その他の業務は児童が下校した後）はなかなか減らない。各自がそれぞれウェルビーイングを高めて、調整しながら働き方改革に取り組んでいる。
	児童			<p>課題解決への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任は授業や児童の生活面の指導に専念できるよう、SSSや学級運営補助員等との分担を引き続き進める。 ・研修・会議資料、教材教具のICT化を一層進める。
	保護者			<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールサポートスタッフ(印刷等教員の補助を行う)というのは初めて聞きました。先生方も最近増えてしまったやるべきこと。本当に大変な時代になったと思います。 ・先生方の負担が年々大きくなっていると思う。少しでも何かが軽減していくことを願います。 ・仕事とプライベートを分けて、心と体の安定をはかってほしい。 ・読み聞かせ活動は、設立当初から先生方の負担をなくしたいという思いから書類作成から児童への配布物まですべてボランティアメンバーで行っている。その他、学校行事でもボランティア(学校応援団)で協力できることは相談しながら行っていく。
	地域			